

### 第13章 1.東アジアの激動

⑤自由貿易の強要→貿易の伸展は少ない=英の産業資本家らの不満→条約改定をねらう



⑥ 1856 [1 **アロー号**] 事件を口実に[2 **フランス**] とともに[3 **アロー**] 戦争を起こす  
→ 1860 北京占領(離宮[4 **円明園**] を破壊)

**カスティリオーネ(仏宣教師)設計**

⑦ 1858 天津条約 1860[5 **ペキン**] 条約を締結

- 1)公使の[6 **ペキン**] 駐在
- 2)[7 **天津**] など11港開港
- 3)イギリスへの[8 **九竜市街**] の割譲
- 4)[9 **キリスト教布教**] の自由承認
- 5)外国人の中国国内旅行の自由
- 6)アヘン貿易公認
- 7)条約の仲介を行った[10 **ロシア**] への沿海州割譲など

南京条約の締結にもかかわらず、貿易額が伸びないことに不満をもったイギリスは、清が[11 **天津**] で苦しんでいるのに乗じて、1856年の[12 **アロー号**] 事件をきっかけに[13 **フランス**] もまきこみアロー戦争(1856～60)をおこして清を破り、1858年天津条約、1860年[14 **ペキン**] 条約をおしつけた。

④ロシアの極東進出

17世紀…康熙帝、[15 **ネルチンスク**] 条約で国境線をスタノヴォイ山脈とする

18世紀…雍正帝、[16 **キャフタ**] 条約でロシアとの西部国境を確定

19世紀、ロシア、東シベリア総督[17 **ムラビヨフ**] のもとで極東への進出を強化

1858 アイグン条約、1860[18 **ペキン**] 条約=沿海州など獲得([19 **ウラジオストク**] 建設)

1881 [20 **イリ**] 条約=西部イリ方面の国境を確定

[21 **シベリア**] 鉄道の敷設(フランスの協力)

### b.太平天国の反乱

①アヘン戦争後の華南=手工業の解体、賠償金→増税、銀流出→不景気、民衆不満の増大

② 1851、[22 **洪秀全**] が上帝会([23 **キリスト**] 教的宗教結社)を率いて華南で反乱を起こす  
([24 **太平天国**] の乱 ~ 1864)

1)スローガン=「[25 **滅満興漢**]」

26 **満州人の国清を滅ぼし漢民族の国を復活させる** →[27 **剃髮**] を禁止し民族主義的性格を持つ

2)土地制度=[28 **天朝田畝制**] …土地の再分配、均分をめざす→[29 **地主**] 勢力と対立

3)外国との対等平等な外交をめざす、[30 **アヘン**] を厳禁

4)男女平等を説き[31 **纏足**] を禁止

③これに対し

1)地主・漢人官僚勢力=私兵集団([32 **郷勇**])を組織し対抗  
[33 **曾国藩**] 「湘軍」、[34 **李鴻章**] 「淮軍」など

2)外国勢力=米人[35 **ウオード**]・英人ゴードンら[36 **常勝軍**]を組織、地主勢力に協力

アヘン戦争の敗北は民衆の生活を直撃した。こうした情勢を背景に華南では 1851 年[37 **洪秀全**] が [38 **上帝**] 会という[39 **キリスト**] 教の影響を受けた秘密結社をひきい[40 **太平天国**] の乱(~ 1864)をおこした。かれらは[41 **滅満興漢**] というスローガンをかけ、清が漢民族に押しつけていた[42 **剃髮**] を禁止するなど[43 **民族**] 主義的性格をもつとともに、土地の再分割をめざす[44 **天朝田畝**] 制度をとらえた。また男女平等をときアヘンも厳禁するなど民主主義的な性格をもっていた。この反乱の拡大をおそれた[45 **地主**] 勢力は[46 **郷勇**] という義勇兵を組織して対抗し、外国勢力も[47 **常勝軍**] を組織し、反乱の鎮圧を援助した。